



地域とのかかわり  
紹介します!

## 施設・事業所の 地域活動 レポート



No.7 社会福祉法人

# こうほうえん

社会福祉法人こうほうえん  
小規模多機能型居宅介護 デイハウスあがりみち

管理者兼ケアマネジャー **中嶋健児**



介護老人福祉施設の介護主任・生活相談員の実践を経て現職。パーソン・センタード・ケアの理念に基づいて実施されるDCM（認知症ケアマッピング）の上級マップパーとして、介護サービス関係者だけでなく、地域住民へ認知症への理解・普及と啓発に従事する傍ら、新たな介護人材育成のため、介護職員初任者研修・介護福祉士実務者研修の講師としても積極的に活動。

### 地域展開の目的や主旨

新さかい幸朋苑エリアにある当法人の施設（介護老人福祉施設新さかい幸朋苑・地域密着型介護老人福祉施設みなと幸朋苑・デイサービスセンター新さかい幸朋苑・グループホームあがりみち・グループホームひので・小規模多機能型居宅介護デイハウスあがりみち）（図）は、当法人の理念の中にある「地域に開かれた、地域に愛される、地域に信頼される『こうほうえん』」を目指しています。

私は、“地域に開かれた”とは、ただボランティアを数多く受け入れる受け身の姿勢ではなく、地域の一部になる状態ではないかと考えてきました。目指すのは、地域の方から「私たちの施設」と言ってもらえることです。

### 施設概要



設立：1987年4月

法人本部事務局住所：鳥取県米子市両三柳400

ホームページ：http://www.kohoen.jp

事業展開：当法人では、「地域との共生」と「地域との連携」を事業の柱としている。地域のニーズに対応するべく、介護・福祉サービスを中心に医療、保育、障がいといった事業も融合させ、新たな複合施設を運営している。鳥取県を拠点に県内に5つの総合施設群を展開するほか、近年は東京都内にも事業を拡大し、現在は41拠点、216事業、職員は2,200人体制である（図）。2010年には、先進的な取り組みを行っている企業として、介護・福祉の領域において、社会福祉法人として初め

てとなる「ハイ・サービス日本300選」に選ばれた。今後も、地域になくてはならない法人を目指していく。

#### 定員

介護老人福祉施設新さかい幸朋苑：64人

短期入所生活介護16人

地域密着型介護老人福祉施設みなと幸朋苑：29人

短期入所生活介護10人

デイサービスセンター新さかい幸朋苑：

32人

グループホームあがりみち：18人

グループホームひので：18人

小規模多機能型居宅介護デイハウスあがりみち：29人

地域の特徴：人口3,370人、高齢化率32.9%  
高齢者世帯が多い一方で、子育て世帯が少ない。空き家も多く、空き巣や不審者などが問題になっている。また、高齢化が進み、地域行事の参加者も減少傾向になっている

#### 法人理念

わたしたちは、地域に開かれた、地域に愛される、地域に信頼される、『こうほうえん』を目指します

#### 基本方針

わたしたちは、サービス業のプロとして、正しい情報を伝達し、自分が受けたい保健、医療、福祉サービスの提供・改善に努めます



地域の一部になるためには、地域と“互恵互助”の関係を築き上げていくことが必要で、そのためには、まず私たち施設職員自身が地域に積極的に出掛けていき、地域のニーズを発掘し、そのニーズに対して自分たちが持っている人材・資源を地域の方のために役立てる活動を行っていかねばと考えました。

図 当法人の拠点



## 地域ニーズの発掘

施設職員が地域に積極的に出掛けていくにあたり、当エリアがある上道8区区長にその思いや考えを伝えました。区長からは、施設職員として地域情報を知ること、施設状況を地域に発信していくことをアドバイスしていただいた上で、上道8区自治会に入会させていただきました。さらに上道自治連合会会議で、各世帯に回覧板を通じて施設機関誌の配布を検討してもらった結果、約1,200世帯への配布許可をもらうことができました。それをきっかけに、今まで施設利用者やその家族のみ配布していたエリア全体の機関誌に加えて、グループホームと小規模多機能型居宅介護事業所の合同制作機関誌も作成しました。合同制作機関誌は、普段の利用者の活動（生活）や事業所の取り組みをより詳細に発信できるように心掛けました。また、機関誌を各区長宅へ介護職員が持参することとし、それをきっかけに顔見知りの関係づくりに努めました。

各施設に回覧板が回って来ることにより、地域や公民館の行事に加えて、派出所新聞などの情報を得ることができるようになりました。そのため各サービス事業責任者は、利用者や職員が地域行事に参加できるように余裕を持って調整できるようになりました。毎月行われる当エリア会議の場で地域行事への参加人数を報告し、小規模多機能型居宅介護事業所の管理者が代表して区長にその人数を報告する流れが構築できました。

事前に区長に行事への参加意思を伝えられたことで、区対抗ソフトボール大会や区対抗卓球大会では、事前に地域の方と職員と一緒に練習する時間を設けることができ、その結果、優勝することができたり、市民運動会では区のテント内に当施設利用者用の席を準備してもらえたりするようになりま

# だんだんよ

平成27年11月号

秋も深まりを見せ、大山では例年より早いペースで紅葉が進んでいるそうですね。もしかしら冬の到来も早いのかもれないと、今から心配しています。しかし、その前に読書の秋運動の秋、そして食欲の秋を満喫したいと思います。

## デイハウスあがりみち

### 魚釣りに行ってきました

「釣りが好きだ」という方と一緒に魚釣りに行ってきました。この日は天候にも恵まれ波も穏やかで絶好の釣り日和。「今日は東風だけん波がないだ」と教えていただきました。今回の釣果は小さいながらもカワハギを2匹とペラを1匹でした。「ペラは刺身にしても美味しい」とご満悦の様子でした。釣った魚は持ち帰っていただき食卓に上がったそうです。



### 干し柿作りをしました

柿をもらってきたので早速干し柿作りをしました。「手が滑って上手くむけんで」と苦笑いをしながらも、さすがベテラン！丁寧にむいてくださいました。柿を吊るす紐も編んで早速外に吊るしました。出来上がりが楽しみです。



### スタッフの月替わりコラム

私、中嶋の秋はルアーフィッシングの秋！アオリイカやスズキを狙いに島根半島から中海へ出掛けてます。恵まれた環境に本当感謝し秋を満喫しております。中嶋健児



## グループホームあがりみち

### さつま芋ほりをしました。

10月14日に 様宅の畑へご利用者2名と職員2名で出掛けました。畑には今が旬のさつま芋が出来ており、足立様のご家族に掘り方などを教わりながら、芋ほりを行いました。最初はなかなか掘り出せず、さつま芋が出てくるまで土をかき分けながらご利用者は職員と共に悪戦苦闘しておられました。ご家族様に手伝ってもらいながら、コツを掴み大小さまざまさつま芋を掘り出す事が出来ました。ご利用者は「たくさん取れましたね〜」や「立派なさつま芋！」と言われ驚いておられました。頂いたさつま芋をふかし芋や料理にして召し上がられました。



## お問い合わせ

いずれの内容も、どこにご連絡頂いてもお話できます。＊介護に関するご相談、見学も随時お受け致します。

した。また、地域行事への参加を通して、少子高齢化、向こう三軒両隣の関係の減少、空き巣や不審者による治安悪化の問題が地域の中にあることを、直接地域の方に聞くことができました。

## 空き巣や不審者による治安悪化への対策

治安の悪化に対して、私たち施設職員が何かできないかを模索した結果、「こども見守り隊」を立ち上げることになりました。しかし、職員より相談を受け、次の課題が浮きぼりになりました。

課題1：見守り隊の基本活動として、学校生活、通学路に慣れていない小学1年生に「校門から自宅まで」の見守り支援を行うが、日々下校時間が変わるため、本業である介護業務と下校時間の見守り支援を両立できるか。

課題2：見守り支援を行っている時、自分たちが事故やけがをした場合の保険はどうなるのか。

課題3：地域の方や小学生に不審者と間違われないか。

課題4：毎日継続して行うためには参加するメンバーや人数をどうするか、日々の調整役を誰にするのか。

そこで、課題1～3への対応を、市教育委員会（学校支援コーディネーター）・見守り隊リーダー・小規模多機能型居宅介護事業所の管理者の三者で協議しました。

課題1に対しては、施設職員は「校門から自宅まで」ではなく、昔のメイン通り（旧道）であり、



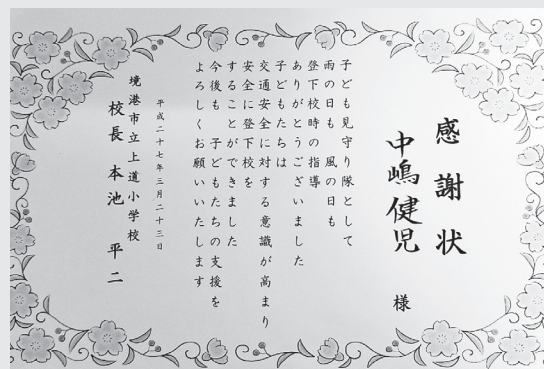
現在は小学生だけでなく中学生も自転車通学で使用している通学路を重点的に、下校時間に合わせて徒歩で30分程度巡回し、不審者に警戒しながらこどもたちの下校を見守ることとしました。また、日々変更のある下校時間については、小学校より児童の家庭に配布される下校予定表と小学校通信の次月分を月末にもらうようにしました。こうすることで、見守り支援を行う時間を決めることができ、介護業務の予定が立てやすくなりました。

課題2に対しては、地域の「こども見守り隊」メンバーの皆さんと共に、学校・家庭・地域連携協力推進事業の事業費でボランティア活動保険に加入させてもらうことにしました。

課題3に対しては、地域の「こども見守り隊」メンバーの皆さんと共に、境港市警察署生活安全係から防犯ジャケット・帽子・タスキをもらうことにしました。

課題4に対しては、参加メンバーを当エリア会議の参加メンバー10人とし、窓口や調整役を小規模多機能型居宅介護事業所の管理者としました。さらに、日々の参加者については、毎朝行われる当エリア合同朝礼時に、メンバー個々のスケジュールから参加可能なメンバーを2人選出することにしました。

「こども見守り隊」の活動を通して、下校時のこどもたちはもちろん、旧道の近隣住民とあいさつを交わすことで顔見知りの関係が構築でき、さらに2013年度は活動地域内で4件あった不審者情報が、2015、2016年は2件と半減しました。また、3月の終業式後には小学校側が「下校見守り感謝の会」を開催してくださり、児童から感謝状や感謝の手紙・言葉をもらうことができました。その際に、1年間の活動を通して感じたことを新学期から守ってほしいこととして伝えました。例えば、「傘を使って遊びながら帰らない!」「2列以上横に並んで歩かない!」など、改めて約束事を交わす機会となりました。



## 地域と共につくり上げた納涼祭

2013年に、小規模多機能型居宅介護事業所とグループホームの駐車場を開放し、納涼祭を開催しました。もともと当エリア事業所の主催で花火大会を行う予定でしたが、利用者や家族に加え、地域の方にも声を掛けたため、自治会長、こども会にも伝わり、自治会、こども会から「自治会の祭がないので共催で行ってほしい」と依頼があり、すぐに「新さかいエリア事業所合同納涼祭実行委員会」を立ち上げました。

開催に関しては、自治会実行メンバー・こども会メンバーと小規模多機能型居宅介護事業所管理者・新さかいエリア事業所合同納涼祭実行委員会委員長で話を詰めて、互いができること、協力してほしいことについて、次のように話し合いました。

①地域には祭が開催できる広い場所がないため、小規模多機能型居宅介護事業所とグループホームの駐車場を開放し場所を確保する。

②ゆっくりと飲食をするスペースを作るために、テントやイスを公民館などから運ばなくてはならないが、運搬車や人手が足りないため、デイサービスの送迎車両と地域住民の軽トラックを使い、地域住民と施設職員が協力して運搬と設置を行うこととする。

③自治会、こども会はこどもたちに流しそうめんを体験させてやりたいが、道具や水の確保が困難である。これについて、以前、個人宅から道具を借りて事業所内で流しそうめん流しを行った経験から、職員が道具や水を手配できることを説明する。

④日頃、デイサービスのレクリエーションとしてカラオケを行っているが、披露する場所がないことから、カラオケ好きの地域の方も参加できるカラオケ大会をプログラムに入れる。

2013年以降、納涼祭は恒例行事となっています。2015年からは、法人の家族会からテントを5つ寄贈され、テントの運搬や設置も簡素化でき、女性やこどもたちが積極的に準備から参加してくれています。さらに、2016年から





は、塗り絵コンテストを開催しています。回覧板で事前に塗り絵の下絵を配布し、期日までに提出してもらいます。それをみなと幸朋苑会議室に掲示し、施設利用者やボランティア、地域の方に審査していただきます。そして、納涼祭当日に、審査結果の発表と表彰式を行います。その他、毎年、ビンゴ大会を開催したり、新しい企画を追加したりしています。



### 合同納涼祭を行っての自治会会長の感想

- 幸朋苑関係者が仕事終わりで夜にもかかわらず、毎回、実行委員会の会合に出席してくださり、非常に感謝している。
- 回を重ねるごとに、施設と自治会は顔の見える関係ができ、連携が取れるようになった。また、納涼祭への地域住民の参加者が増えてきており、昔ながらの向こう三軒両隣の関係が再構築されつつある。
- 塗り絵コンテストの審査投票で、みなと幸朋苑の会議室を訪れた住民も多く見られ、今まで以上に施設と住民との距離が縮まってきたと感じている。
- 今後も合同で納涼祭を開催することを望んでいる。

## 核家族化の進行による世代間の交流不足へのががわり

### ● 保育所との交流会

小規模多機能型居宅介護事業所とグループホームでは、地域にある保育所と行き来する交流会を月2回行っています。

1回目は、毎月保育所で行われる誕生会に小規模多機能型居宅介護事業所とグループホームの利用者（当月の誕生者）が参加し、一緒に誕生日を祝っています。その際、あいさつで利用者の年齢を聞いたこどもたちは、自分たちの何倍もの年齢に毎回びっくりし、その表情を見た利用者は、誇らしげに笑顔を浮かべる光景が見られています。





2回目は、年長組を中心とした園児たちが、小規模多機能型居宅介護事業所とグループホームを訪れ、歌や踊りを披露してくれます。楽しみにしているのは利用者だけでなく、最近では園児の保護者も「保育所の生活発表会は土日開催で、仕事柄見に行きにくい。これなら平日なので見に来やすい」と訪れて、我が子の様子を一生懸命カメラに収めています。

### ●認知症や高齢者の啓発活動

地域にある小学校の人権教育に職員が参加し、認知症サポーター養成講座や高齢者疑似体験を実施しています。実施後は、小学生から「町で高齢者が困っているところを見かけたら、怖がらずに声を掛けてみます」という感想が聞かれるようになりました。



### ●地域の年末年始行事への参加

地域の年末年始の行事（餅つき・門松作り・とんど焼き）に、職員・利用者も参加しています。門松作りは、利用者が講師となり、竹の切り方や男結びの方法を地域の若い方に伝授する機会となっています。



## ●インフォーマルグループへの参加

地域の方が集まり、伝統文化を継承しているインフォーマルグループである「傘踊り同好会」や「スコップ三味線同好会」をボランティアとして施設に迎えるだけでなく、職員も練習に参加し、市内の演芸会や施設などで披露しています。

## ●出前勉強会

職員が地域の敬老会に参加して、ごみ出しや買い物で困っている高齢者への対応方法を寸劇で披露しました。敬老会の参加者から「もっと（認知症）高齢者への対応方法が知りたい」「介護保険制度について教えてほしい」との声が聞かれたため、施設職員が講師になり、公民館や集会場などで出前勉強会を実施しています。

## ●避難訓練への参加

2011年に東日本大震災、2016年には鳥取県中部地震が発生し、近年、日本の至る所で大規模災害が発生しています。また、島根県は冬になると、大雪に見舞われることがあります。そのため、地震による災害、大雪による停電や水道管の凍結などを想定して、炊き出し訓練や津波発生時の避難訓練を実施しました。実際に大雪で水道管が凍結した際は、近隣住民へ事業所内のお風呂を開放したり、大雪のため車で狭い路地に入れない方に、事業所の駐車場を開放したり、雪掻きの支援をしたりしています。



## 今あるニーズだけでなく、 今後のニーズに対応するために

地域の一部になるため、地域と“互恵互助”の関係を築き上げていくために、私たち施設職員自身が地域に積極的に出掛けていき、地域のニーズを発掘し、そのニーズに対して自分たちが持って

いる人材・資源を活用してきましたが、知り得て活動に移したニーズはまだ極一部と考えます。

今後も日々生まれる地域のニーズに対して貢献できるよう努力を惜しまないことはもちろん、今後のニーズに予測を立て、対応できるように準備しておくことも地域貢献のためには大切だと考えます。